

2024 和歌の浦

# 短歌

ワークショップ  
選定短歌

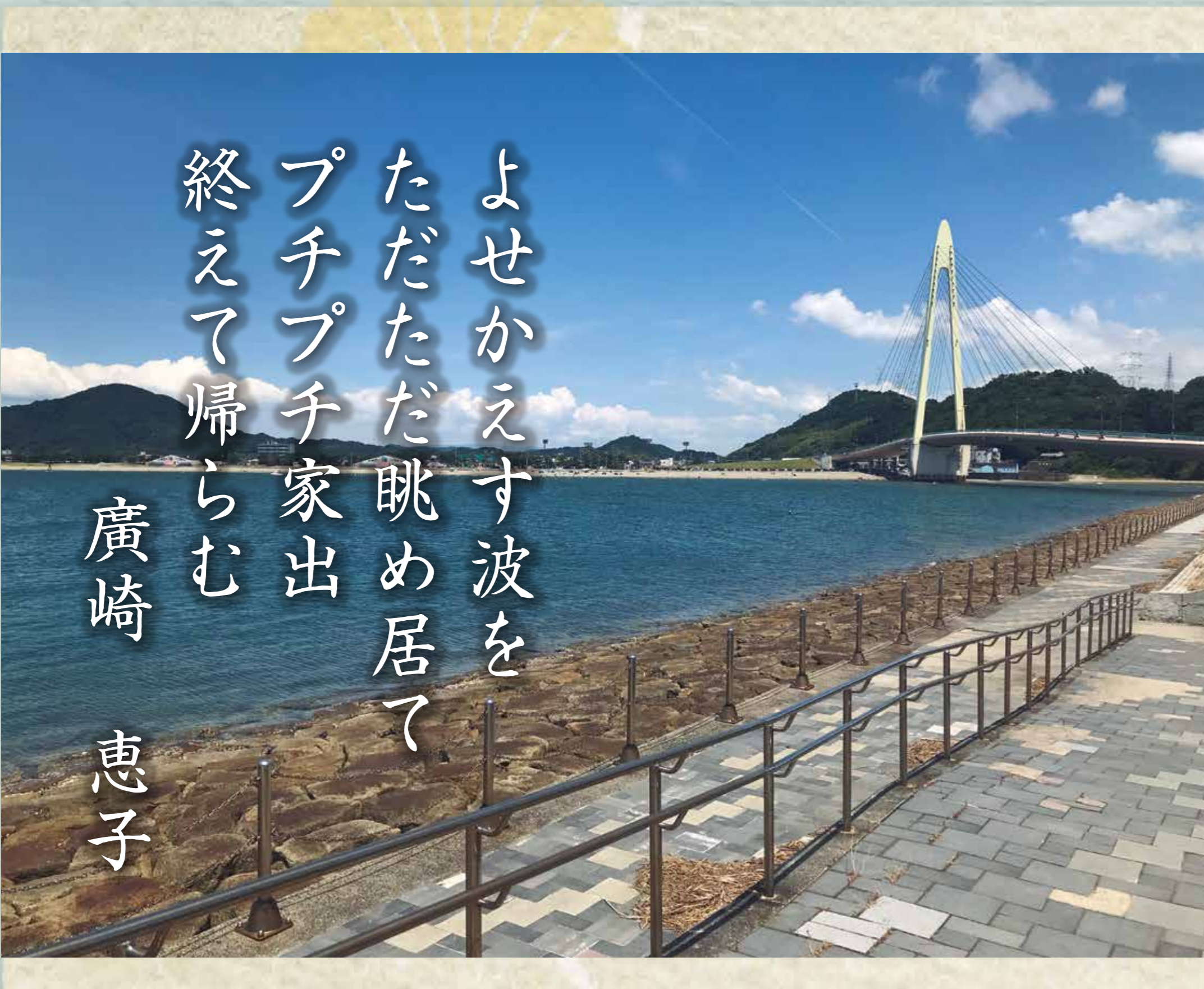
テーマ

「和歌の浦」／「海の思い出」



若の浦に  
老いずの橋とは  
めでたけれ  
その名にし負わば  
永久ならましを

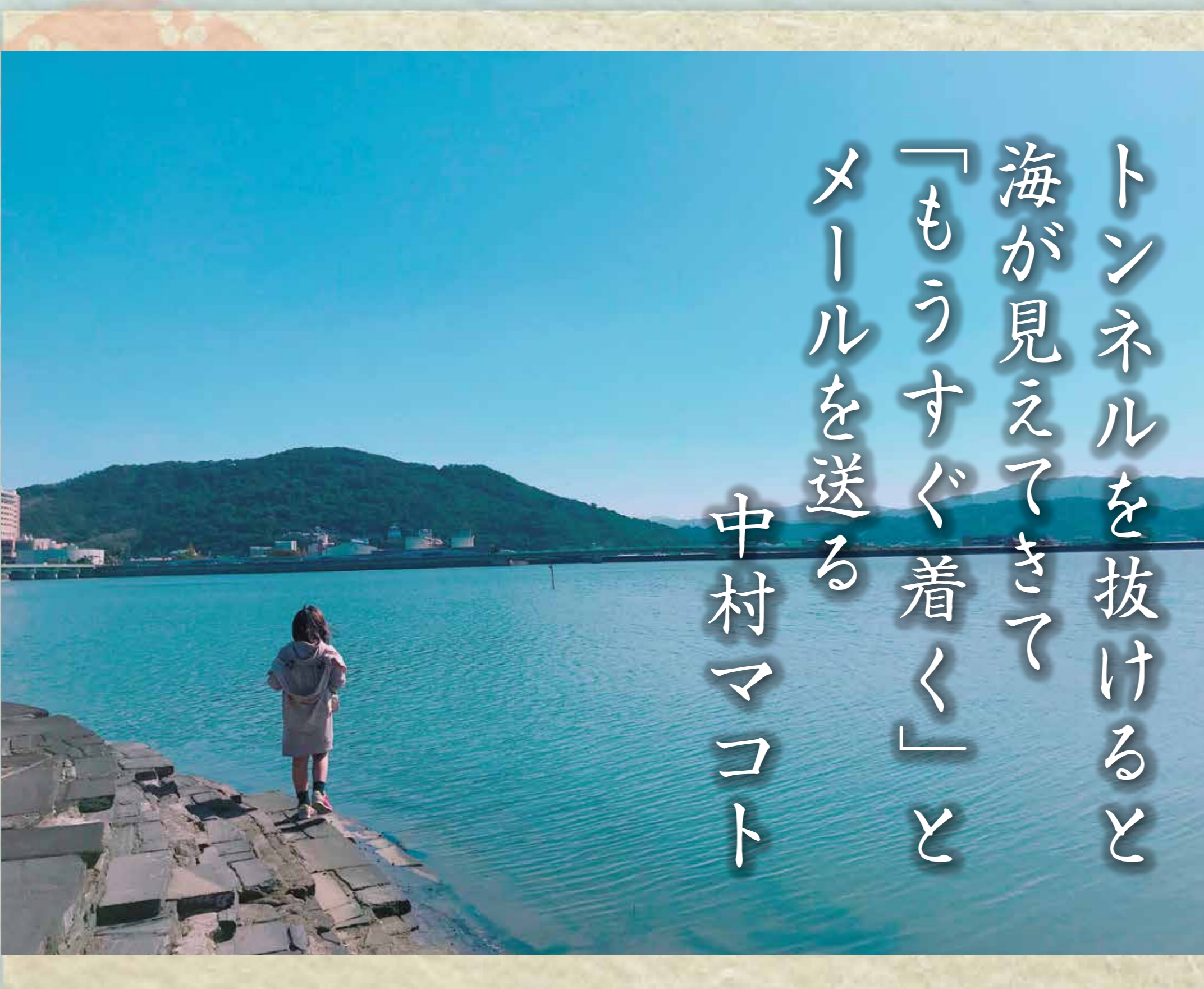
トム



よせかえす波を  
ただただ眺め居て  
プチプチ家出  
終えて帰らむ

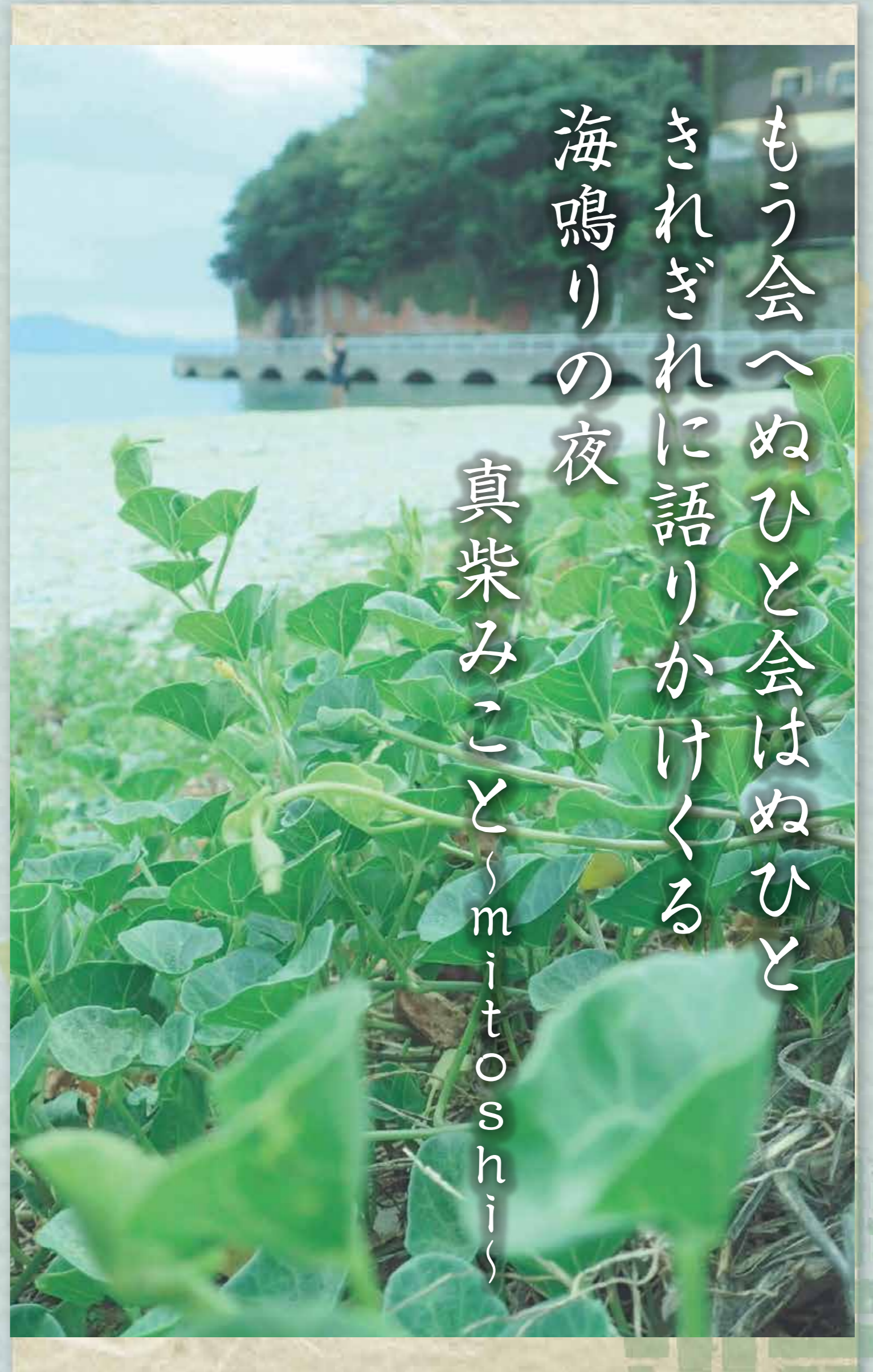
廣崎

恵子



トンネルを抜けると  
海が見えてきて  
「もうすぐ着く」と  
メールを送る

中村マコト



もう会へぬひと  
会はぬひと  
きれぎれに語りかけくる  
海鳴りの夜

真柴みこと (mitoshi)

2024  
和歌の浦

# 短歌

ワークショップ 選定短歌

テーマ「和歌の浦」／「海の思い出」

タタタタタ笑い追いかけて逃げる娘よ  
3回目には波につかまる

イマミツ

番所の庭より見ゆる双子島  
仲良く並び夕日に染まる

上野壽子

内海に向かうベンチに日向ぼこ  
せむかと誘う回覧板来

木下のりみ

沈みゆく夕陽も海の向こうでは  
光を放ち誰かを照らす

くらたか湖春

和歌の浦力士と置いてごめん  
君の故郷はこんなにも青

クルーズ・トム

海上につぎつぎひらく大花火  
病室の窓に独り見し夏

下村由美子

和歌の浦橋が架かりしこの景色  
昔の人は夢にも思わん

しん

珊瑚礁泳ぎ達者な夫の背に乗った  
その日は乙姫だった

のぶこ

浮袋穴が開いて沈んでく  
九歳なのに死んじやうのかな

ばせり

2024  
和歌の浦

# 短歌

ワークショップ 選定短歌

テーマ「和歌の浦」／「海の思い出」

お手頃な麦わら帽子手に入れて  
行く適温の海がないのよ

やーくん

宝でも見つけたように山頂で  
君が指さす遠い水色

阿部裕啓

眼裏に映る母郷の浦曲には  
遠富士を背に海苔ひびの舟

安田蝸牛

波が足の周りの砂を削っても  
私は前に進めずにいる

臼井慶子

和歌の浦なぎさを往けば  
波に連れ勿来の濱に至るものらし

岡崎佐紅

少しだけ海のおいがするようで  
捨てないでおく異国の切符

夏山栞

サンダルを奉納したと母ちゃんが  
波を拜んでみなを笑わす

海の神さまへご挨拶

繋がらぬかわりに海に手を浸し  
あなたはそちらで元気ですか

外山雪

ひとつとて同じ波などないのだと  
窓辺に立ちし病床の父

岩中幹夫

2024  
和歌の浦

# 短歌

ワークショップ 選定短歌

テーマ「和歌の浦」／「海の思い出」

ゆつくりとバスが左折し紙芝居みたい  
にゆつくり海がはじまる

吉田冬扇

風いでいる海を愛するあの人が  
ふと遠い目で我を見ている

宮田恵里

波音は母の寝息に少し似て  
枕近くに置いておきたし

月夜ぼたん

ずっと待っていてくれたような海だった  
浅瀬は鏡のようにしずかで

桜庭紀子

干潮の海へ蛤とりに行く  
大人は道具を肩にかつぎて

三浦ユリコ

吐き出すや海を目指したあの息は  
きつと私の情熱だった

山下ワードレス

言の葉の揺れるさまこそ波打ちの  
浦にただよふ小舟なれけり

春風

和歌山の枕詞のうつくしき  
語彙もて詠へあさもよし紀伊

女郎花

「お酒さえ飲まなきやいい人だったね」と  
言われた友よ故郷の海だ

小島富美子

2024  
和歌の浦

# 短歌

ワークショップ 選定短歌

テーマ「和歌の浦」／「海の思い出」

かほばなの咲く浜影に吾ひとり  
君の便りの絶えて久しき

中原 美智子

冗談を言うとき眩しそうに目を細める  
君が揺らす海域

中村 圭亮

ロープウェイ消えたる丘へ駆け来れば  
赤人詠みし鶴の飛ぶ見ゆ

中島走吟

渚にて波追う少女を姉と呼び  
幼子は追う和歌の浦にて

坪庭知也

けんかして仲直りして  
波はただ足を優しく濯いでくれた

杜野詩季

和歌浦に海無し県より嫁ぎききぬ  
万葉人と同じときめき

二階堂ねこ◎和歌山ライター

遊泳はできない海で足だけが  
輝く夏を実感してる

二枝紗莉惟

不老橋のたもとに群れる冬かもめ  
真白き胸に夢ふくらませ

畑節子

思い出は光打ち寄す砂浜の  
波の引き去るきわの足跡

苗村青鷺

2024  
和歌の浦

# 短歌

ワークショップ 選定短歌

テーマ「和歌の浦」／「海の思い出」

曖昧な意志の疎通はとことばに  
男と女をへだたつ海峡

松田 早苗

三景の橋立にすら比肩する  
片男波てふ砂嘴の和歌浦

松田素風

ポケットに貝の片方片割れを  
さつきそこでとあなたに渡す

植田仁那

和歌の浦なみの底にはいにしえの  
書庫ありうたは水面にひらく

新村衣里子

祈禱寺の五百羅漢のその一人  
ややにうつむき視線合わさず

瀬戸内 光

砂浜にあしが触れるか触れないか  
くらのとこで君が手を振る

瀬崎薄明

和歌の浦の夕陽に涙流すとき  
わたしも海の欠片とおもう

青糸りよ

紀三井寺の石段やつと登りきり  
振りむけば海、青く光って

船田愛子

思い出は海の幸こそ和歌の浦  
朝に夕べに梅の香うれし

大杉ロン

2024  
和歌の浦

# 短歌

ワークショップ 選定短歌

テーマ「和歌の浦」／「海の思い出」

着崩したりネンのシャツの隙間から  
あの日の海が見えた気がした

友常甘酢

きれいなほうの記憶の棚にしまひこむ  
海の匂ひのするサンダルを

有村桔梗

砂の上気づかず掴んだ子クラゲは  
海をかためたものだったんだ

琥珀

すこし前きれいな石を見つけたよ  
海にもらった大切な石

竹ながき一

和歌浦の自然とともに暮らす日々  
喜怒哀楽の響きが走る

奥野 瑛久

かにかいたリユツクの下に  
かたほうのはさみが大きい  
よこにはしった

あっちゃん

ご投稿ありがとうございます

